



TEAM NEXT YONEZAWA

「おすそ分け」の気持ちも 一緒に届ける贈り物

引っ越しや荷物の発送などに必要な段ボール箱や、贈り物に華を添えてくれる高級感あふれる美粧箱。生活の様々なところで何気なく使っている「箱」は、私たちの日々の暮らしを便利にしてくれています。

今回紹介する(株)丸定は「箱」のエキスパート。段ボール製品や紙管など、多種多様な包装資材を取り扱ってきました。「お客さまの声を直接聞いてニーズを実現できることが私たちの強みです」と遠藤さんは胸を張ります。明治初期の米沢で、創業者の佐藤定次さん(さとうさだじ)がご馳走のおすそ分け用に藁と木材を組み合わせて折箱を考案・販売したことがきっかけで誕生したこの会社は、以来145年にわたって包装資材の製造販売に取り組んできました。

そんな創業当初の「おすそ分け」という考え方に立ち返って開発されたのが、さくらんぼ用のギフトボックス「SakuranBox」(サクランボックス)です。さくらんぼのポップで可愛いイラストが目を惹く箱の中には、おすそ分け用の小箱が入っています。「『おすそ分け』を通じて人と人がつながるとい体験を楽しんでもらえるようなデザインにすることで、山形県産さくらんぼの魅力をもっと多くの人に伝えたいという想いで開発しました」と遠藤さん。高橋さんも「素材にプラスチックを用いず、インクも水性のため、リサイクルに適した商品になっています」とこだわりを語ります。SakuranBoxを皮切りに、今後は米沢や置賜の名産品用のギフトボックスのデザインも進めていくとのこと。包装資材を通じた地元名産品の知名度アップを目指して様々な工夫を凝らすお二人の姿から、強い郷土愛を感じました。

包装資材のデザイン・製造・販売を手掛ける

株式会社 丸定 (アルカディア1丁目)

明治8年創業。「創造と真心で未来をつつむ」をモットーに、包装資材の製造・販売を行っている。写真は営業本部長の高橋総一さん(たかはしそういち)と営業課長の遠藤久憲さん(えんどうひさのり) (写真右)と営業課長の遠藤久憲さん(写真左)



包装資材の工場現場

「米沢品質向上運動」とは

本市では、挑戦と創造のあかし「米沢品質」をスローガンに掲げ、産品だけではなくサービス・観光・文化・行政など、様々な領域の「挑戦と創造」を喚起し、付加価値を高めていくことを目的に「米沢品質向上運動」を展開しています。本市のブランディングに賛同し、この運動に参加するプレイヤーが「TEAM NEXT YONEZAWA (TNY)」です。(4月14日現在、164の企業・団体・個人が登録)

